

中国が世界最大の石油純輸入国・化石燃料純輸入支払国に

— 増大する中国のエネルギー輸入、重くなる日本のエネルギー輸入負担 —

計量分析ユニット 需給分析・予測グループ 研究主幹

柳澤 明

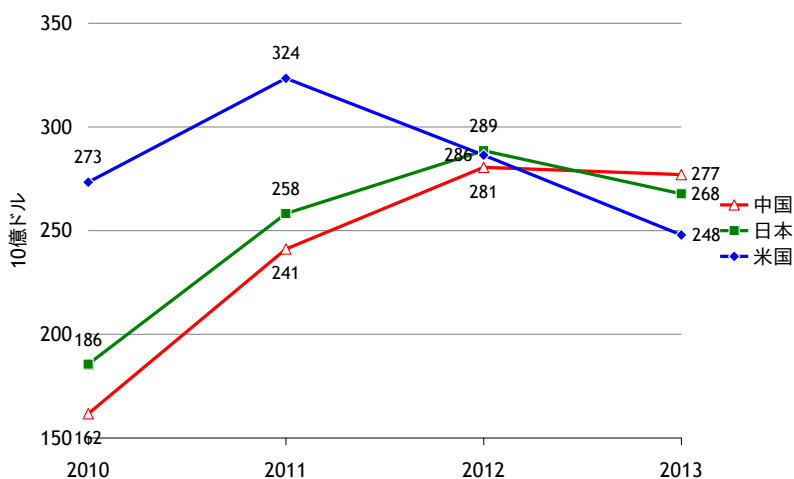
要旨

中国は、2010年に世界最大のエネルギー消費国に躍り出た後も、消費量を拡大させ続けている。2010年から2013年のわずか3年間における増分が、日本1国の消費量に匹敵するものになる勢いである。私たちは、2013年に一遅くとも2014年には一、急増する中国のエネルギー消費の状況を象徴するような2つ出来事を目の当たりにすることになる。

1つは、中国が世界最大の石油純輸入国となることである。中国の新車市場は2013年には年2,000万台超になることが確実視され、石油需要を誘発している。一方で、米国は、金融危機を契機に自動車保有台数を減少させ、低燃費化もあいまって、石油需要の減少傾向が加速している。さらに、シェール革命による石油増産が加わり、純輸入量が減少している。月によっては、既に中国の純輸入量が米国を上回っている。

もう1つは、中国の化石燃料純輸入額が世界最大となることである。世界最大の支払国は、2011年までは米国、2012年は日本であった。しかし、2013年には中国が第3位から最高位まで一気に順位を上げるのが確実な情勢である。ここでも、石油純輸入量の推移が大きく影響している。

化石燃料純輸入金額



日本は、エネルギー消費量では世界第5位に過ぎない。一方で、5～6倍の量を消費している中国・米国と同水準の巨費を化石燃料の純輸入に費やしている。このことは、日本のエネルギー供給構造の脆弱性を端的に示している。経済的な影響程度という意味では、日本のそれは米国・中国に比べて遥かに大きく、米国の3.6倍、中国の1.7倍に達している。

目下、日本は経済成長(所得の増加)に見合う以上に化石燃料の輸入を増大させている。さらに、円安も荷重を拡大させている。ほぼ全てを海外に頼らざるを得ない化石燃料の大量輸入で、国民負担が増していることを注意深く直視する必要がある。

キーワード: 化石燃料、石油、輸入量、輸入額、日本、米国、中国、円安